

(Lonely Night Gathering)

やめし夜の句会報 第215回 (2025.12.14-2025.12.21)

参加者: クイスク、カオルル、しまねいへん、ひごひめ、真田(ましの)じい
ます。、空野つみき、美蟲角(びむつづかく)、笛地静恵、輪井ゆう、
非常口ドット、藤岡あや、西脇祥貴、栗井ゆずる、都まなつ、モロシ
ロひのみ、Nichtraucherchen' 水の眠り、下野みかも、宮坂泰経、西沢
葉火、沢田大輝、雨声、蔭一郎、何となく短歌、中川晶子、涼、え
み、砂のよな、石川聰、しづとも、月階柚、雷(ひの)、季川詩音、
あづみのマルコ、佐井杜有、山田真佐明、塩の司厨長、岡村知昭、力
ゲキ・ちやけぞう、まじけい、片羽雲雀、鈴木正巳、もりや、
solikoniisi' 台風のめ、恋衣、nes'、三明十種、リコシエ、水玉子、安
藤 蜜豆(ミツダ)、Nita2514400、天然石アクセサリーkiki's、猫屋敷メグル、
アイン、長尾伊織、よむやま さか、川瀬千萌子、水田早霧、月波与
生(ゆのな)

◆川柳・俳句

サロメを前に関節がゆるむ クイスク

今年の一字に罫を選る クイスク

手札揃わす仔猫のそっぽ アリタ別館

ひみつばかりのアソコちゃん Nichtraucherchen

アンパンマンに食べられた Nichtraucherchen

背骨抜くと沈みゆく商店街 アイン

最後から三番目だと決めつける 猫屋敷メグル

蛍光灯割れてよくあるクリスマス 雷

目のうらが目のまえになり珈琲飲む 雷

満潮のコインロッカーから琥珀 空野つみき

鉄塔になつた少女のくらげ狩り 空野つみき

毒婦にもなれる寒夜のあまがえる 空野つみき
箱庭に変声前の朝を呼ぶ 空野つみき

とこしえに暗夜わたしのカプリチオ 空野つみき
はるはやて黄色い花に咲く緑 空野つみき
龍として太陽系の爪を塗る 空野つみき

龍として太陽系の爪を塗る 空野つみき

段違い平行棒に干した鮭 薮一郎
階段はすぐエツシャーを使い捨て 薮一郎

とはいえを追い越してゆく消防車 薮一郎
一連のきりたんぽによつて逮捕 薮一郎

きりたんぽまではなんとか路線バス 石川聰
エジソンの歯形が残るサツマイモ 汐田大輝

チンアナゴさえ都営大江戸線に乗る 汐田大輝
ヤモリになつた短歌をもてあそぶ 汐田大輝

山茶花や明日は見えます大丈夫 真白
ト書きにノイズ かわせみに薄い傷 nees

指先の狐火腹の中で燃ゆ 片羽雲雀

マダムとの会話のツボが滝になる 山田真佐明
ベトナムのマダムが笑う虫払う 山田真佐明

簡単になくすへその緒 都まなつ

折りたたみ傘は思春期 都まなつ

梢火にはあつて夫に足りぬもの しまねこくん
あの人は戻らないのね湯気なのね しまねこくん

加湿器と自分を比べてはならぬ しまねこくん

電池切れ以後そぐ中島みゆき 西脇祥貴

また布袋様に似たサンタクロース 輪井ゆう
寒月やまぼろしの島連れ立ちて ひいらぎ

*

狐火となるまで素振してをりぬ カオルル

幸運の星一個だけの師走哉 美蟲角

合鍵のひとつばかりを四十雀 笛地静恵

飛ばれそうお酒を呑んでいるひとは 下野みかも

教養の高き落書きルーン文字 宮坂変哲
恋人に鰐があるから苦しいの 西沢葉火
障子の桟雜巾かけるな穴空くぞ 中川晶子
さみしさも元氣があればむしろラク 涼
お土産にお茶をいただく星回り えみ

お歳暮を贈り合わずの距離もあり 砂のような
靴下を七つ落とせばクリスマス しろとも
冬晴やひとつひとつにある歴史 季川詩音
恨みつこなしでトンボに筆られる 佐井杜有
にらめつこしましよプラッシュアップつぶ 塩の司厨長
象の産卵を見に行く夜明け前 岡村知昭
さざめく星に祈り届けと指鉄砲 カゲキ・ちやけぞう
白廻し夜干し滴る冬銀河 鈴木正巳

色着けて紙を破つて棄てる もりや

冬雨をすべらせている滑り台 soukoni

寒牡丹いまありいと視ちごふけり 三明十種

熱さめて夜更かしをする油断する リコシェ

くちびるを湿らせたのは通り雨 水玉子

駅前の 像より猛し オリオン座 Yuta25144090

十六茶なめて川柳詠む深夜 まどけい

眠いのに眠れぬ夜を駆けてゆく 安藤蜜豆

湖をたたんでいたら蛇だつた 佐井杜有

*

回文の少女紳士の新聞紙 月波与生

◆ 短歌

感電の味がするわと君が言うサバの缶詰光る明け方 モロ
ツコひろみ

四分と三十三秒音のない曲に親しみ私は眠る 恋衣

ぼくたちは足があるから花には成れず蜜蜂に頼らず愛に彷徨う 藤岡あや

*

陽光の歌は底では眩しくて肩が触れ合う歌に縋つた 非常口ドット

星の夜ユリの香水うす化粧たまゆら薰る君のいた部屋 栗井ゆづる
切り出した白いひかりの灯台は盲いわたしの杖になりたる水の眠り

「欲望を持つのを仕向けたのも神様でしょ?なのにそのちよつとの欲望も見逃さないってわけ!」 雨声
あなたとの想いで飾り付けられて誰にも見えないツリーは光る 何となく短歌

「常識」が窓に犇く校舎からヘッドフォンして宇宙へダイブ 月階柚

つらぬくは雨粒ほどの約束で胸の奥まで季節に入る あづみのマルコ

まいどあり、「あり」に蟻いて年の瀬に列のない夜(よ)をまつすぐ帰る 台風のめ

わたしとは共生できぬ私だとまだ来年の手帳は買えず 砂のようない

幾重もの縮緬で飾り 関節の曲がり角で待ち合わせ

天然石アクセサリー kiki's

妹の友人の訃報を聞いたのは何年前の夏だったかと 長尾伊織

◆詩・短文

作品はありません。

◆作品評から

加湿器と自分を比べてはならぬ しまねこくん
んく。いうほど比べてはないんだよね。んく。
(よもやまさか)

はるはやて黄色い花に咲く緑 空野つみき
「言葉の斡旋と表現の巧みさにいつも度肝を抜かれたの
しく読ませていただきてます。いつか平易な言葉だけで
空野さんの月並俳句も読んでみたいと思いました。よか
つたらぜひお願いいたします。(蔭一郎)

鉄塔になつた少女のくらげ狩り 空野つみき

「少女は鉄塔になり、いまや無敵。さあくらげ狩りだ。
海をひっくりかえし、かきまわし、くらげを取り尽くすの
だ。少女は気づく。鉄塔の自分は、動けない。歩けない。
泳げない。鉄の脚は地面に据え付けられ、鉄の身体を電気
が通う。くらげ狩りに行けない少女の、慟哭が響く。(岡
村知昭)

恋人に鰐があるから苦しいの 西沢葉火

「恋人に鰐があり、私にはない。それが苦しい。なぜ私
には鰐がないのだろう。わたしに鰐があつたらふたりは今
よりもつとひとつになれるのに。そのように思いをめぐら
せる苦しさ、そして喜び。今の私には鰐はないけど、鰐の
ある恋人はいる。生きていてよかつた。鰐はないままだけ
ど。(岡村知昭)

ベトナムのマダムが笑う虫払う 山田真佐明
「ベトナムのマダムが笑う虫払う」。ベトナムは虫が

多いので、虫を払うというのは日常茶飯事だと思います。

「笑う虫払う」という部分が面白く、「笑いながら虫を払つた」とも、「笑つている虫を払つた」とも理解できます。ベトナムは社交性が高いので、虫が笑つてたら面白いと思いました。（季川詩音）

ふたしかな記憶で走る市営バス 汝田大輝

～初めての土地の路線バスに乗ると物凄く緊張する。どこで降りたらいかわからなし、料金もわらかないし、空席であつても座りにくい座席ばかりだし。（月波与生）

裸婦または廃駅として無知になる 空野つみき

～「裸婦」「廃駅」「無知」。まだ言葉同士の連絡が弱いが数を作れば地力が付いてくるでしょう。あきらめずこの線を深化させてください。（月波与生）

～裸婦と廃駅で映像が浮かび、無知になるで抽象的な世界に突き落とされる一句でした。（雨戸）

ばあちゃんの手首を飼い慣らすサロメ クイズケ

～サロメ句を量産している作者だが最近粒が揃つてきた。川柳は「毎日書く」「作句数は裏切らない」がはつきり可視化する。（月波与生）

くちびるを湿らせたのは通り雨 水玉子

～とても好きです（川瀬十萌子）

龍として太陽系の爪を塗る 空野つみき

～「太陽系の爪」のスケール感凄いな。句柄が大きい！龍が句頭にあるから、すんなり爪が入つてきます。「塗る」ジエルネイルのイメージとか来て今の川柳っぽさも来るかなあ。（石川聰）

満潮のコインロッカーから琥珀 空野つみき

「満潮のコインロッカー」に凄くイイネ。コインロッカーフてなんか私性を感じる。主に私物を入れる空間だからか？ 琥珀^{II}宝石よりは、句頭の「満潮」から夕陽に染まつた海水とかのイメージが。コインロッカーの中は広大な夕陽の海で、その飛沫が飛んでくる。あとビールも可

w (石川聰)

一連のきりたんぽによつて逮捕 蔭一郎

「食事のマナーを間違えたのでしょうか。きりたんぽ軍団が怒つてゐるのではないでしようか。それはもう、きりたんぽの刑2年ぐらいの罪です。鍋の中に入つていてください。(季川詩音)

「ビューダね！」(水田早霧)